

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1193
施設名	よつば保育園
施設所在地	東京都府中市緑町2-31-8
法人名	社会福祉法人ゆたか会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

電子顕微鏡を通して「小さな世界」への好奇心を育む

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
子どもたちの普段の散歩での発見や気づきから「もっと近くで見たい」「これ、どうなっているんだろう」というつぶやきから、身近な素材を題材にした探究活動「保育園にあるものをのぞいてみよう」を実施した。

2. 活動スケジュール

園庭や公園などで自然物に触れる。その中で気づいた気付きを深掘り、実物投影機を購入し、身近にあるものを観察してみる。その後、子どもたちが調べたいものを保育園の中で、それぞれが持ち寄り、いくつか調べてみる。園内から園外へ活動の幅が広がる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

実物投影機

ELMO CAST (モニターに映し出し共有するためのもの)

桜の花

布団

ぬいぐるみ

めだか

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

顕微鏡や拡大レンズを活用し、園庭や保育室内にある様々な素材（葉・砂・紙・布・クレヨンなど）を観察しより深い探究や知識につなげていく

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもたちが、普段の散歩などで様々な自然物に触れる中で、細かい部分に目を向ける機会が多々あった。そんな中で園庭で見つけた花をみて「真ん中が黄色い」というつぶやきから、もう少しよく見えるようにと実物投影機を使い観察する。様々なものを覗き込む中で、身近な素材を題材にした探究活動「保育園にあるものをのぞいてみよう」を実施した。活動では、実物投影機を使い拡大し、園庭や保育室内にある様々な素材（葉・砂・紙・布・クレヨンなど）を観察対象とした。子どもたちとともに「どんなものを見てみたいか」を話し合い、身近なものの中にある“気になる”を引き出すことから活動が始まった。

観察中はメダカを見て「どくどくしている」「しっぽがふわふわしてる」「つるつるしてる！」など、目に見えたものを言語化しようとする姿や、友だち同士で見せ合いながら感じたことを伝え合う姿が多く見られた。また、布団の繊維が「つやつや光っている？」「寝ている時にも光っているのかも」といった仮説的な視点も見られ、興味関心が深まっていく様子がうかがえた。同じものを観察していてもそれぞれが異なる印象をもち、それを共有する中で、「自分の感じ方」と「他者の気づき」の違いに触れ合う場面が多く見られたことは、5歳児にとって重要な成長の現れと感じた。活動を通して、身近な環境に新たな視点をもって接する姿や、自分で疑問を持ち確かめようとする姿、そして友だちとの関わりを通じた思考の広がりが見られ、探究的な学びの基礎が育まれる有意義な時間となった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身近な素材を顕微鏡で観察する活動を通して、子どもたちが「もっと知りたい」「比べてみたい」と疑問をもち、学びを深めていく姿が多く見られた。保育者として、子どもの発見や驚きを受け止め、そこから学びを広げていく環境や関わり大切さを改めて感じた。また、「見えたものを言葉にして伝える」「友だちと共有する」といった姿から、探究活動が言語力や社会性の育成にもつながる可能性を再認識した。